



親鸞の生涯

3

聖徳太子のみちびき

比叡山での厳しい勉学修行の明け暮れ。

九歳で入山してから十年の歳月が立ちました。

青年期に入った範囲は成長とともに人間としての苦惱に遭遇します。

ここで学んだ「仏教」は、苦惱に喘ぐ人々を救う本物のおしえなのだろうか。この現実から離れた高騰な教学。これが本当のほとけのおしえと言えるのだろうか。

それにも増していくたまれないのは「この私」。

修行すればするほど、学問積めばつむほど、

◆平成24年は、宗祖親鸞聖人の750回忌に当たります。本山でも勝林寺でも遠忌法要やいろいろな記念行事が営まれます。◆親鸞さまのご生涯とそのおしえを、もう一度尋ねておしてみたいと思ひます。◆「わたしにとつて親鸞さまは」どのような方なのでしょうか。◆毎月テレホン法話と勝林寺寺報とで学びます。どうぞ参考ください。

十九歳の秋、親鸞は、先ず奈良の法隆寺。そこから河内の国の磯長（しなが）叡福寺の太子さまのお墓（太子廟）へ祈願の旅に出掛けます。◆親鸞さまの生涯とそのおしえを、もう一度尋ねておしてみたいと思ひます。◆「わたしにとつて親鸞さまは」どのような方なのでしょうか。

平安時代以降、庶民の間には全国的に太子廟が建てられ「太子信仰」が流布しております。太子様は觀世音菩薩さまの生まれ変わり。愚者貧者を見捨てずにお救い下さる眞実の仏さま。新羅の聖明王の皇太子「阿佐」という方はわざわざ日本にきて聖徳太子にお逢いして言ひには、「觀音さまの生まれ変わり。この東の小国日本に現れて真実大乗のおしえをお広めくださるお方」。

親鸞さまは、この民衆庶民から慕われている太子さまに「まことの仏教」を聞こうとしたのです。

磯長の太子廟三日のお籠もりで聞いた夢のお告げは、「わたし観世音は、この日本を〈悟りと救いの大乗仏教〉にぴったりのところと思う。あなたはこの教えによつて清浄なお淨土に導かれるであろう。だが、あなたのいのちはあとわずかだよ」

余命いくばくもない。この逼迫感のなかでのそれからの求道は、まさに阿修羅のごとく壮絶であります。自己と激しく闘い闘い、何が真実かを求める日々でありました。そして終に、二十九歳。

比叡の山から京都市中の観音堂「六角堂」にて20歳の道を踏破して毎夜の参籠（おこもり）を始めたのです。そして九十五日目の未明の靈夢。

まつ白なころもの觀音様が告げます。

かくて若き親鸞は、誘われ導かれて、京都東山の麓「吉水」へ去然上人を訪ねるのです。かくて若き親鸞は、誘われ導かれて、京都東山の麓「吉水」へ去然上人を訪ねるのです。かくて若き親鸞は、誘われ導かれて、京都東山の麓「吉水」へ去然上人を訪ねるのです。

夢からさめて善信（そのころの親鸞さまの名前）。この煩惱のわたしを莊嚴してくれる者は誰。極楽に導いてくれる人は誰。

あなたを導きましょう

五月 雉月 のこよみ

さつきまつ 花たちばなの香をかげば
昔のひとの袖の香をする

一 日 二 日 三 日 二十一日 二十六日 五 日 六 日 十 日 二十一日 二十六日 二十七日 二十八日 二十九日 三十日

朗読ボランティアあすなろ（録音）
憲法記念日 中嶋 正枝氏宅法事 藤川 貴恵氏宅法事 金久 英明氏宅法事 立夏 平田專福寺永代経 福知山谷垣 栄氏宅法事 検診 宗祖降誕誕生日（ごうたんえ） 出石組念佛奉仕団 衣川 忠良氏宅法事 大石 昌一氏宅法事

（小野の小町） 明日ありと 思うこころの あだ桜 敷島の大和ごころを 人とわば 朝日ににおう やまとくら花 （本居宣長）

花のいろは うつりにけりな いたずらに
わがみよにふる ながめせしまに

（範円 親鸞） よわに風の 吹かぬものかわ
いろは匂えど ちりぬるを
わがよたれぞ つねならむ
有為の奥山 今日越えて
浅き夢みじ 酔いもせず
(今様)

「一々差一上げる」
「…のに」 といふ
「自己主張が加わり」と
「らぬまに」
「いづれが始まります」



四つのより所

「わたしたちを今まで導いて下さったお釈迦さまが亡くなってしまったなら、これからなにを頼りにしていけばいいのでしょうか」と嘆き悲しむ弟子たちを顧みて、お釈迦さまが最後に言い残されたお言葉が、『涅槃經』という古い記録に残されています。

先ず第一、「法によりて人に依據ざるべし」。人に限らず全てのものは移ろい滅び亡くなつて行く。目の前に今までいてくださったその人が亡くなつても、その人の説いて教えてくれた法は永遠。その眞実の法(縁起の法)に目覚めましょう」。

お釈迦は亡くなつても、親は死んでしまっても、その人は今もこの私に何を呼びかけどんな願いをかけ続けてしてくれるのか。諸行無常

次ぎにお釈迦さまはおっしゃいます。

「義に依りて語に依らざるべし」。

言語表現、ことばのアヤに振り回されではならぬ。大切なのはことばの意義・意味。たとえことばはなくとも、ことはを超えたその人のまことの願いを聞きましょう。

法然さまのお弟子たちは、南無阿弥陀仏の称名は、「お助け下さい」の私の祈りのことばと理解しました。そのなかで親鸞様だけは、南無阿弥陀仏はわたしを自覚させようとする如来さまの「呼び声」と聞きました。そしてそのなかにほとけさまの切ない願い(本願)を聞き信じていかれました。

四つの正しいより所

三千年むかしの、お釈迦さま最後のお言葉ですが、今のこの時代に生きるほわたしに取つて、まことに厳しい警告であると味あわせていただきました。

人はいつも口のなかでモグモグ言っていたのを覚えてる。
人がわるない 我が身が悪い
破れ車の わ(輪)がわるい
暮らしお車がガタガタするのは
人のせいではない
わたしの車輪がいたんでいるから
おばあちゃんは、このことばの次に必ずナ
ンマンダブツと言つていた。

暮らしの車がガタガタするのは
人のせいではない
わたしの車輪がいたんでいるから
おばあちゃんは、このことばの次に必ずナ
ンマンダブツと言つていた。

一つの言葉
二つの生き方

しつこくののしれ 他人の失敗
笑つてごまかせ 自分の失敗

どちらがいいのかなー
どちらが人間らしいのかなー

おばあちゃんのは
人が悪うない わが身が悪い
破れ車の 輪か悪い ナンマンダブツ

ひとつは
ひつこくののしれ 他人の失敗
笑つてごまかせ 自分の失敗

どちらがいいのかなー
どちらが人間らしいのかなー

「これなー、とつてもいやなことやけど、社会で競争に勝とうと思つたら、これぐらいなことしなければやつていけへんのと違うやろか。」

昔、私の高校時代、国語古典を教えて下さった、眞面目を絵に描いたやうな先生が、授業とはなんの関係もなくある日突然そんなことを言されました。

今から思うと、先生、よほど腹に据えかねたことがあつたに違ひありません。腹立たしい無念そうなそのときの先生のお顔が思い出します

もう20年も前のこんなことを思い出したのも、このごろわたしの職場でこのようないいとがしょつちゅうあるからです。

しつこくののしれ 他人の失敗
笑つてごまかせ 自分の失敗

「それはかあちゃんや!」
小学校3年生のうちの女の子。

「うちがお茶碗割つたら、かあちゃん(ホレマタ)って何度も何度もしつこく責めるの。ところがかあちゃん自分がしたときには(お茶碗落ちちゃつたハハハ)だつて」

私がまだ物心つかないとき死んだおばあちゃん
親つてそんなもんかな。
△
△